



■医療機器開発の実践的カリキュラムが行われる沼津高専

医療分野への参入を後押し

ファルマバレープロジェクトから成果品が続々と誕生する中、地元を中心に同プロジェクトや医療分野への参入を望む声が高まっている。こうした中小企業を支援するための各種施策を紹介する。

即戦力の医用機器開発エンジニアを養成

沼津工業高等専門学校は、県東部の中小企業を対象に「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」を10月から開催する。これは、沼津高専と県が文部科学省「地域再生人材創出拠点の形成」事業に申請し、採択されたもの。補助金総額2億5000万円、医療機器開発の中核となる技術者を5年間で32人以上育てるのが目標だ。受講期間は2年間、初年度の募集人数は8人と少数だが、質の高い講義、実習を行い、幅広い知識と専門性を兼ね備えた即戦力の技術者養成を目指している。



■「自社の強みを活かし、異業種参入に挑戦してほしい」と語る沼津高専の柳下校長

カリキュラムでは、医療機器分野に参入するために必要な薬事法などの法的知識や品質・安全工学、臨床医学・工学の基礎を学ぶ。そのため、沼津高専だけでなく、東海大学開発工学部、薬事



■講座は大きく、医用基礎技術コースと医用先端技術コースの2段階で行われる。医用基礎技術コースでは、薬事申請・関連法規や臨床医学・臨床工学をはじめ、医用品質・安全工学、医用材料加工技術などが学べる。医用先端技術コースは機器開発を専門家とともに実践するプログラムだ。

法関係機関、産業支援機関、臨床機関、大手医療機器メーカーなど多彩な講師陣が顔をそろえる。開講にあわせ、沼津高専は新たに血流測定機器などの実習設備も導入した。また、2年間のうち最後の半年は、受講する企業の技術力を活かした開発実習を行う。

医療機器分野へ参入を目指す企業にとって、必要な知識、技術をトータルで習得でき、沼津高専や東海大学と共同研究に近い形で開発実習が行えるのは大きなメリット。沼津高専の柳下福蔵校長は「既存のものに新し

いものを吹き込み、新たな富、価値を創造するイノベーションが地域の発展には不可欠。その具体策である今回のプログラムには、産学官の密接な連携のもと理想的な環境が整った。ぜひ、本気で医療分野に進出したい、また、既に取り組み始めている企業からの参加を期待している」と語る。

医療分野という新たなフロンティアへの門戸が開かれた今回の取り組み。意欲ある中小企業に大きな福音となるだろう。

富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム

- 1 受講料 無料
- 2 募集期間 平成21年7月27日(月)～平成21年9月3日(木)
詳細は募集要項 (URL: <http://www.numazu-ct.ac.jp/>) をご覧ください。
- 3 問合せ先 沼津工業高等専門学校
「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」事務局
TEL: 055-926-5856 / FAX: 055-926-5700
E-mail: josei@numazu-ct.ac.jp

